

多め（8頁参照）なので、堆肥だけで栽培。酒井さんのばあい、肥料養分も堆肥の有機物に期待し、不足を有機質肥料で補う組み合わせです。

綱川さんのダイコンは、葉つき出荷なので、根も葉もおいしく育てることが大切です。そのためには地上部を大きく伸ばしすぎないことがコツで、ドンカメのペレット堆肥「粒太郎」（窒素1.8%）を使い、化成肥料は標準的な施肥量より少なめに施します。堆肥によって少量の化成肥料をじっくりと効かせることで、根も葉も甘いダイコンを育てています。

梅澤さんは1枚の畑で多種類の野菜を栽培していますが、^{うね}畝単位で、堆肥と化成肥料の組み合わせをしています。ミズナ・サニーレタス・カブなどは同じ畝にし、肥料をたくさん吸うハクサイは別畝というように分けて、堆肥と化成肥料の効果を引き出しています。

●堆肥の力で、前作の残肥や残さを有効に利用

吉永さんのニンジン、堆肥「粒太郎」を使い、肥料はゼロ。前作の大麦に鶏糞を施し、大麦が吸い残した養分と、畑にすきこんだ麦わらが肥料源です。これを、堆肥の微生物による効果で分解を進めニンジンに吸収させます。「むだな肥料を使わずにすみ、収穫したニンジンはおいしい」と吉永さん。

以上、皆さんに共通なのは、堆肥の力を活かして、肥料源をむだなく上手に活かすこと。その堆肥と肥料の組み合わせが、「丸ごと元気でおいしい野菜」を育てる基本なのです。



酒井紀之さんのカブ。堆肥と有機質肥料で甘いカブを育てる



綱川欣典さんのダイコン。堆肥と少なめの化成肥料で根も葉もおいしく 左/ドンカメのペレット堆肥「粒太郎」



梅澤ノブ子さん いろいろな野菜を堆肥と化成肥料で



左/吉永能成さんのニンジン。堆肥で、前作大麦に施した鶏糞を活かす
上/冬に育つ大麦。ニンジンへ肥効がつながる